

報告ダイジェスト

- ・平成29年度渋谷区「障害者週間」記念式典開催報告 (報告1)
- ・超福祉展「ヒューマンライブラリー」&「シブヤフォント」 (報告2)
- ・10/15(日)第34回ぱれっと福祉バザー報告 (報告3)

報告1 平成29年度渋谷区「障害者週間」記念式典開催報告

平成29年度渋谷区「障害者週間」記念式典が12月2日(土)に渋谷区美竹の丘・多目的ホールで開催されました。

第1部は、区内在住、在勤の障がいのある方々、福祉の向上にご尽力された方々の表彰があり、長谷部区長から表彰状が授与されました。第2部では、「みんなで楽しもう歌と演奏」が開催されました。ぱれっとからは、ハーブ演奏で河合真里さん、扇山範久さんが参加されました。

私は、初めてハーブの生演奏を聴きましたがその調べに感動しました。奏でるとい言葉にピッタリな楽器ではないでしょうか。その音色は、とても心地よくもあり、高貴な感じもし、奏でる姿はとても優雅なものでした。河合真里さんは、「春の小川」を演奏されました。とても優しい感じの音色で一音一音丁寧に奏でていました。今は冬ですが春を待つ曲の様に思いました。河合さんに、「どうしてハーブを習い始めたの?」と質問すると「音が好きだから」とニコニコしながら答えて下さいました。扇山範久さんが演奏された「翼をください」は昨年式典が終わった後直ぐに、この曲を一年後に演奏すると決めて練習し

てきたとハーブの先生からご紹介がありました。その音色は、力強くもあり優しく心に染み入りました。扇山さんにも、「どうしてハーブを習い始めたの?」と聞くと、やはり「音が好きだから」。そして選曲は、この歌の内容を知り合いのお母様から聞いて決めたと話してくれました。とてもいいエピソードだと思いました。

余談になりますが、ハーブの由来は、紀元前4千年も前にさかのぼるそうです。ギリシャ神話にも「オルフェイスと竖琴」という話があって、オルフェイスの奏でるハーブ(竖琴)の調べに、森の動物、木々や岩までも癒されたと言われています。本当にハーブは、そんな音色でした。音楽には、人を癒す力があると思います。そして、また聴きに行きたいと思っていますので、扇山範久さん、河合真里さんこれからも練習頑張ってください。

(おかし屋ぱれっと 宮越三映子)



(ぱれっとハーブ教室の仲間たち)

報告2 超福祉展「ヒューマンライブラリー」&「シブヤフォント」

去る11月7日(火)～13日(月)、第4回目となる「超福祉展」が開催されました。福祉そのものに対する「意識のバリアをなくそう」と企画され、渋谷駅近辺の各所で展示や参加型イベントがあり、ぱれっとは「ヒューマンライブラリー」と「シブヤフォントシンポジウム」に参加しました。

●ヒューマンライブラリーとは？

デンマークで2000年に生まれた試みで、話し手が「本」役となり自身の体験や思いを語り、数名の「読者(お客様さん)」との対話を通して、相互理解を深める目的です。

今回は工房ぱれっとの榊川里穂さんが「わたしの仕事～わたしのらぶらび見てください!～」、おかし屋ぱれっとの照井美貴さんが「私の仕事と休日」と題して、それぞれが「本」役となりました。読者には大学生や新聞記者の方達が、ぜひこの話を聞きたいと予約をして集まってくれました。最初に写真を見せながら自分の体験を語った後は、読者からの質問に答えていきます。輪の中には今日初めて会ったばかりとは思えない程親密な空気が流れ、「どうやってアイデアが生まれるんですか」「大変だと思ったことはありますか」等次々と質問が飛び、30分間では時間が足りない程です。

話し終えた榊川さんは「緊張した～っ!」と安堵の表情。一方の照井さんは「全然緊張しませんでした」と余裕を見せてくれました。読者からは、「直接話してみて、仕事に対する真剣

さが伝わってきた」学生からは「こんなに長時間働いていることを知って驚いた」「人生の先輩としてかっこいいと思った」との声が聞かれました。



【緊張したけど、聞いてもらえて嬉しかった!】

●新作シブヤフォントもお披露目

障がいのある人の手書きの文字(フォント)や絵(パターン)をデジタルデータにして、広く一般に利用してもらおうと取り組んでいる「シブヤフォントプロジェクト」の今年度の成果も超福祉展で初めて発表しました。渋谷ヒカリエで開催したシンポジウムでは、関わった桑沢デザイン研究所の学生や作業所職員が製作の背景を話し、お客様には気に入った作品へ投票をしてもらいました。また渋谷駅ハチ公広場の展示車両(通称:青蛙)をシブヤフォントで参加者が思い思いにデコレーションしたり、ハチ公がシブヤパターンを配した蝶ネクタイでおめかししたりと来街者にアピールしました。

渋谷区では障がいのある人の活躍の場がどんどん増えて広がっていると感じます。こうした新しいチャレンジが、本人にとって自分の殻を破るきっかけとなっていくことを願います。(工房ぱれっと 玉井七恵)

報告3 ^{きずな} ~絆プロジェクト2017!~

^{あしもと} 足元から始める ^{わたし} 私たちに出来ること ^{さあ} さあ、^{うご} 動き出そう!

皆さん"絆"^{きずな}というチームをご存じで
しょうか?今回は"絆とは?"を昨年一
年の取り組みを新たに^{あら}加え^{しょうかい}紹介いたし
ます!^{たいへんおもしろ}大変面白い^{こと}試みを行なっています
ので最後までお読み下さい!

●どんなところ?

絆では、^{たまり場} 場ばれつと利用者^とと
ボランティアが、^{共に} ともに^{たの} 楽しみつ
一生懸命^{考え} 考え・^{運営} 運営することを^通通して、
^{豊かな人間関係} 豊かな人間関係・^{学び} 学び・^{成長} 成長・^{喜び} 喜びが
得られる、^{そんな場} そんな場を^{目標} 目標に^{様々な} 様々な^{取り} 取り
組みをしています。

【開催】 毎月一回の定例会を基本活動と
し、その他お出かけ企画などを実施。

【参加者】 : 定例会には平均20人程が
継続的に参加。

●活動において大切にしていること

次は私たちが活動を行なう際に、
大切にしている主なものです。

- 皆で考え話し合う時間、
皆で共に取り組む時間を大切に。
- 楽しみながら学ぶ。
学びながら楽しむことの現現。
- 参加者の長期的な関わりならではの
深い企画と人間関係作り。

●活動方針

昨年は特に大切に^{する} する^{観点} 観点として^次 次
の3点を設定しました。

- 大切にしたいこと → **取り組み**
- 自立に向けて → **日常生活力UP!**
- 自発性の向上 → **皆が中心の時間作り**
- 社会との繋がり → **社会の一員としての活動**

実施にあたっては、^{学び効果} 学び効果のアップ
を期待し、同じ企画を繰り返して実施する
こととしました。



【(クッキング) 味付けについての学び】

●具体的な活動の紹介!

次が2017年の主な取り組みです。

- にこにこクッキング (通年)
- みんなが先生プロジェクト (通年)
- 街の片づけ大作戦 (通年)
- 新年会
- 野外活動
- ピクニック (有栖川公園)
- NHK スタジオパーク見学
- 語り場
- 寸劇
- 忘年会

この中で今回は、1年を通して取り組
んだ3つの活動についてご紹介します。

◆にこにこクッキング(日常生活力UP)

切り方・火の通し方・味付け等、毎回
テーマを設定し料理の基本を学びまし
た。出来上がりまでのプロセスを確認し
てから行なうことで、普段料理をしない
人でも理解しやすく楽しんで取り組め
るプログラムとなりました。初めは元々
料理が得意な人の働きが目立っていま
したが、回を重ねるごとに皆が自分の
役割を見つけて、積極的に関わるように

なりました。

〈参加者の感想〉

- ・家でも試したくなる簡単なレシピだったのが良かった
- ・料理も食事も皆でするほうが楽しい

◆皆が先生プロジェクト(皆が中心)

自分が得意なことを他の絆メンバーへ伝えようというプロジェクトです。ダンスが得意な人による野外ダンスレッスンや茶道を嗜む人による袱紗さばき講座など、どの回も特技が存分に発揮された内容でした。進行役の経験がほとんど無い人も挑戦してくれたこと、更に授業後に授業を受けた人に意見やアドバイスを自ら求める姿に驚きました。

〈参加者の感想〉

- ・丁寧に教えられたけど、言葉で説明するのは難しかった
- ・教える立場は初めてだったが良かった



【(先生)袱紗さばきを丁寧に説明!】

◆街の片づけ大作戦(社会の一員!)

恵比寿の街へ感謝の気持ちを込めてごみ拾い活動を行いました。美化委員会を中心に毎回話し合いが行なわれ、活動前には注意事項の確認とルート決め、活動後はふり返りをしました。その中で「どうしたら周囲に気を配りながら

安全にごみ拾いができるか」ということが議題にあがり、皆で解決方法を見つけて実行し、より安全に活動ができるようになりました。また、プロジェクトの特別編として品川清掃工場の見学会に皆で参加し、ごみの分別やりサイクルの大切さを改めて認識出来ました。

〈参加者の感想〉

- ・街を綺麗にできている実感がある
- ・やってみるとけっこう面白い



【(片付け)ごみ拾ったどう!】

◆まとめてみると

これら1年の活動を通してメンバーは、皆への心配りや、協調して取り組むこと、また人前で話し・伝える・聞くことが上手になり、合わせて責任感や自信、新しいことに取り組む姿勢なども増した気が(なんとなく? ^ ^)します!

●そして新たな始まり!

昨年は、プログラム自体に継続性を持たせるといって、私たちにとってはチャレンジな1年でした。無事終了することができ、参加者はじめ温かく見守って頂きました皆様に御礼を申し上げます。と同時に、2018年はさらに今年の活動を踏まえ、活動に広がりや深みを持たせていきたいと思えます。

絆プロジェクト実行委員会一同